

# たくましく将来を切り拓く国語科授業・評価開発

## —自立・協働・創造にいきる「伝え合う力」の育成—

教育実践研究科 教職実践専攻 教職実践基礎領域  
平井 翠

### I はじめに

#### 1 生きる力としての思考力・判断力・表現力

知識基盤社会の到来やグローバル化の進展等急速に社会が変化する中、次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、他者と切磋琢磨しつつ、異なる文化や歴史、そして人々との共存を図ること等、変化に対応する能力や資質が一層求められている。

また、学習指導要領改訂でも、「生きる力」としての「思考力・判断力・表現力等の育成」が掲げられ、国語科の中心的実践課題ともなっている。

#### 2 21世紀社会を生き抜く力の育成

変化の激しい行先不透明な社会の中、自ら課題意識をもち、人間的で、たくましく生き抜く力をもった生徒の育成が求められている。

平成25年に閣議決定された第2期教育振興基本計画において、「いま正に我が国に求められているもの、それは、自立・協働・創造に向けた一人一人の主体的な学びである」と掲げられ、「自立・協働・創造」の3つの基本的理念の実現に向けた生涯学習社会の構築を目指すことが示された。また、基本的方向性の1つとして、「社会を生き抜く力」の養成が設定され、以下のような具体的な成果目標・指標、具体的方策が体系的に整理されている。

- 1 生きる力の確実な育成
- 2 課題探究能力の修得
- 3 自立・協働・創造に向けた力の修得(生涯全体)
- 4 社会的・職業的自立に向けた力の育成

多様で変化の激しい社会の中で、個人の自立と協働を図り、自らが将来を切り拓いていく主体的・能動的な力が教育全体で求められている。

### II 国語科において求められる力と今日的課題

#### 1 「言語活動の充実」と国語科

新学習指導要領で、各教科等における「言語活動の充実」が方針として総則に掲げられた。そのため、国語科は、各教科等における言語活動を円滑に進めるための言語能力を育成する教科としての役割が一層強まった。

平成20年の中央教育審議会答申の中で「言語活動の充実」を図ることに関して、国語科では、以下のように示されている。

国語をはじめとする言語は、知的活動（論理や思考）だけではなく、（中略）コミュニケーションや感性・情緒の基盤である。

このため、国語科において、これらの言語の果たす役割に応じ、的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して伝え合う能力を育成することや我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する。

以上のように、全教科の中核としての言語力の育成が掲げられ、記録・報告・説明・鑑賞・批評等の学習活動を通して、論理的な言語力の育成が、主体的な課題解決能力につながるような系統的な教育観・授業観から行われることが求められている。

#### 2 「伝え合う力」の重視

上記の答申にも記載されているが、平成20年中学校国語科の新学習指導要領において「伝え合う力」「コミュニケーション能力の育成」が重視されている。人と人との関係の中で、互いの立場や意見を尊重し、言語を通して適切に表現したり、正確に理解したりする力が求められている。これは、21世紀を生きる子どもたちにとって身に付けさせるべき言語能力の基盤であり、言語を核とする国語科学習には、確かな学力を定着させる責任がある。

#### 3 国語科における「習得」・「活用」型授業

新学習指導要領が2008年3月に告示され、特に「習得」「活用」力の重視による問題解決能力の指導の重要性が掲げられた。

その内容として、「基礎・基本的な知識・技能の習得」「知識を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成」「主体的に学習に取り組む態度、学習意欲の向上」が挙げられた。

いわゆる「習得」「活用」を両軸とした授業計画を各教科・領域において、実践することが求められている。

### III 実習校の学びの実態

#### 1 学校・地域の特長

一宮市立A中学校は、全校生徒約800人（1年8クラス、2年7クラス、3年7クラス、特別支援2クラス）の大規模校であり、2つの小学校から生徒らは進学してくる。かねてからこの地域に代々住む人々が多かったが、近年宅地化が進み、家庭環境も変化して

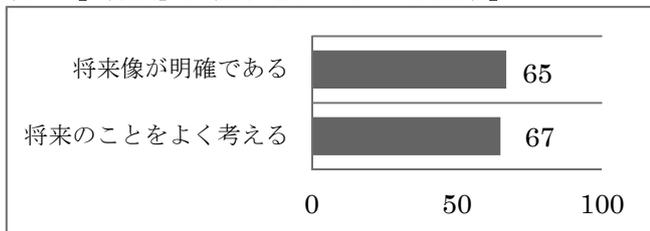
きている。

## 2 子どもの実態

本校の生徒は、明るく素直で落ち着きがあり、授業に対しても意欲的な生徒が多い。

本実践の前後に、生徒に対して「自分の将来」と「話すこと」「聞くこと」に関する意識調査をした。結果は以下の通りである。

### 資料1 【「将来」に関するアンケート結果】

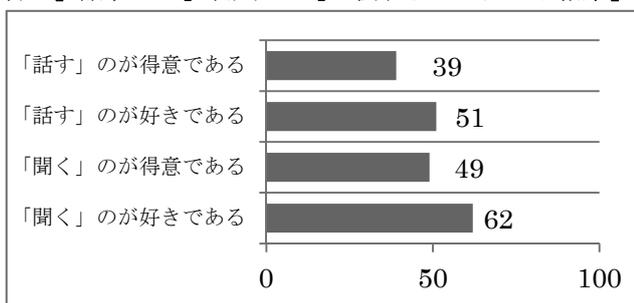


「将来」に関する調査結果を見てみると、半数以上の生徒が自分の将来について考え、また明確な将来像を抱えていることが分かる。

また、個々に目を向けてみると、将来への意識が非常に高く、明確なビジョンを描き、実現のために努力を重ねている生徒も見受けられた。

しかし一方で、将来の夢や趣味、好きなことが見出すことができない生徒もおり、両者の差が大きく開いている。

### 資料2 【「話すこと」「聞くこと」に関するアンケート結果】



「話すこと」「聞くこと」に関するアンケートでは、全体的に低い数値が出ている。

「人前で話すことが得意である」という項目に対して、39/100という低い数値結果が出ている。実際にスピーチが好きかどうかを全体に問いかけてみても、ほぼ全員の生徒が「好きではない」という返答をしている。話す・自己を公的な形で伝えるということに対する苦手意識があり、消極的な姿勢がうかがえる。

他方で、スピーチ原稿を書くこと自体には、これまでの学習を生かしており、比較的慣れているように感じられる。材料を集めるマッピングからスピーチ原稿を書く上で必要な情報を選択し、スピーチ原稿につなげていくことができる生徒が多い。

## IV 研究の仮説とその手立て

### 仮説①

伝えたい考えや気持ちを正確に伝える知識や技能

を習得させ、活用することで、互いに伝え合う力が高まるだろう。

### 手立て①

- ①相手に伝える知識・技能の習得
- ②認め合い・かかわり合う場の設定

### 仮説②

将来に対する自分の思いや小説の中心人物の心情や生き方から考えた意見を論理的に言語化させることで、より明確な将来像や自己の生き方の形成へとつなげることができるだろう。

また、スピーチをし、全体に発信・交流させることで、他者と自分の生き方を比較し、広い視野で将来を見据える力につながるだろう。

### 手立て②

- ①公的・論理的な「型」の習得
- ②段階的な読み取りと発信・交流の場の設定

## V 学級づくり実践 —教師力向上実習I—

### 『たくましく将来を切り拓く力を育てる学級経営』 —「伝え合う」発信・交流型の言語活動を中心に—

#### 1 テーマ設定とその背景

実習校の教育目標は、「豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成をめざす」であり、生徒自らが自分の生き方や将来を考え、正しい判断力をもとに夢の実現を目指す生徒の育成が目指されている。

また、中学校1年生の6月という時期は、中学校生活に大半の生徒が慣れ始め、仲間の性格や特性を理解し始める時期である。同時に、人間関係に非常に敏感になり、自分の意思や意見は明確にもっているものの、それらを伝えることに抵抗を感じ、自分の感情と行動が相反する時期でもある。

中学校国語科の新学習指導要領において「伝え合う力」「コミュニケーション能力の育成」が重視され、相手を尊重し、互いに伝え合う力が求められている。これは、21世紀を生きる子どもたちにとって身に付けるべき言語能力の基盤であり、国語科のみならず、学校教育全体の基礎・基本として育成すべき能力である。

以上のような実態や背景をもとに、実習Iのテーマを『たくましく将来を切り拓く力を育てる学級経営—「伝え合う」発信・交流型の言語活動を中心に—』と設定した。

本実践では、将来や夢に関するテーマでスピーチ原稿を書かせ、自らの将来を考えさせた。そして論理的なスピーチとして全体に発信・交流させ、他者と自分の生き方を比較し、広い視野で将来を見据える目を育てたいと考える。

また、活動を通して互いを知り、ともに理解し合い、支え合う関係の構築につなげようと実践を行った。

## 2 実践指導計画

表1 【実践計画表】

段階	主な学習内容	身に付けさせたい 言語力	本単元における 評価標準（基準） （到達目標）
習得1	<p>①「伝え合う」「分かり合う」ことの難しさを活動を通して知るとともに、教師のモデルスピーチを聞き、スピーチの楽しさ・魅力を理解する。</p> <p>②「スピーチ交流会」を行うことを知り、見通しや課題意識をもつ。</p> <p>③論理的な「話し方」「聞き方」「伝え合う力」の基本学習を行う。（発表・相互交流・評価方法等）</p>	<p>①話す態度や姿勢・話型（声量・相手・目的・場面意識等）</p> <p>②聞く態度（主張のキーワード・具体例・要約・引用等）</p> <p>③話す・聞く（伝え合う）基本学習（話型・文型・具体例と根拠・体験・レポートの書き方を活かしたスピーチ等）</p>	<p>①話す・聞く（伝え合う）基本の型を理解することができる。</p> <p>②学習の今後の課題意識や見通しをもつことができる。</p>
活用1	<p>① テーマ「私の将来の夢」について、論理的なスピーチ原稿を書く。（500字程度）</p> <p>② 教師による添削指導・評価を行う。</p>	<p>①自分の考えをもつ。</p> <p>②自分の立場や関心・興味から論理的まとめる。</p> <p>③一貫した主張と構成の型の理解</p> <p>④キーワードや題名の付け方</p>	<p>①自分の立場や関心・興味から論理的に分かりやすく書くことができる。</p> <p>②一貫した主張と構成の型を理解することができる。</p>
活用2	<p>①「伝え合い」を意識した交流会を行い、生徒同士、交流・評価し合う。（正確で個性的な情報理解と発信・交流）</p> <p>②一人一人全体発表する。</p>	<p>①「発信」技術の基本モデル学習（場面・目的相手に応じた分析や評価や交流・論理的な構成・音声と文字・キーワード・説得力・自分らしさ等）</p>	<p>①「話す」「聞く」の観点を踏まえ、互いに伝え合うことができる。</p>
評価・一般化	<p>①内容、「話し方」「聞き方」等の振り返りをシートに記入し、学習を振り返り、自己・他者（相互）評価する。</p> <p>②仲間の発表から、感じたこと、分かったこと等を記述し、交流し合う。</p>	<p>①学習のメタ認知能力（内容価値・方法）</p> <p>②他教科や生活経験に活かす振り返り学習</p>	<p>①自己・他者を評価し、新たな課題発見や疑問をもつことができる。</p> <p>②他教科や生活、読書等に活かそうとすることができる。</p>

## 3 実践の内容と実践のポイント

### （1）授業実践

#### 国語科『伝え合う』スピーチをしよう

#### ①導入・基礎・基本学習【習得型学習1】（1時間）

単元を通して「伝え合い」を意識することを伝え、互いに「伝え合う」ためには、「話し方」「聞き方」のスキルが必要であり、その習得を目標にし、観点を示しながら進めた。

また、テーマとの関連から、スピーチの共通課題を「将来の夢」とした。事前のアンケートにも見られたように、将来の夢が明確でない生徒が多くいること、そして、個人的な内容で全体の場で公言しにくい際の配慮も入れ、将来の夢や生活につながるであろう「熱中しているもの」というテーマも付け加えることとした。

これらを共通課題とし、将来に関して言語化させることで、生徒自身の中で、より将来像やその根本的な理由等を明確にすることができるよう意図し、実践を行った。

そして、共通課題や内容が広げ、情報を出させるために、教師が板書にマッピングのモデルを示したあとに生徒らにも行わせた。

#### ②発展学習【活用型学習1】（2時間）

生徒にスピーチ原稿を書かせる前に、教師がモデルスピーチを行った。モデルスピーチは、生徒が、人間性や興味、個性を感じられるように心掛け、作成した。（資料3参照）

#### 資料3【学習シート 教師のモデルスピーチ】

むすび	まとめ	なか	なか	なか	はじめ	構成・内容
行動目標	自分の考え	理由や具体例（思い出に残っているキーワード）		紹介 説明	話題	内容
★これからしたいことを書く。	★エピソードは必ず書く。通して考えたこと、必ず書く。	※「場面・行動・会話・感情」を等と、その時の「様子」が伝わりやすくなる。	※「理由」を書く。	★一番伝えたいエピソードも理由を書く。	★熱中しているものの紹介や話題をしよう。	★何について話すのかを（例）熱中の熱中してるとは○○です。
これからも、笑顔がこぼれ、愛情をいっぱいこめた料理を作りたいと思います。	誰かに食べてもらうことの喜びと、料理の楽しさ、そして料理に気持ちを込めることの大切さを、日々実感しています。	二つ目は、少しの味付けで味が大きく変わるということがたくさんあります。母が、味付けを入れるものを教えてもらいましたが、それを入れると入れないとは大きな差があり、驚きました。母の知識と腕を感謝します。	料理に熱中するようになった理由は二つあります。一つ目は、家族に作った時、いつもみんなが「美味い」「ありがとう」と言ってくれたことがとても嬉しいからです。家族の笑顔を見るとか出来て、心があたたかくなります。	料理の中で、肉じゃがや焼き魚、煮物やあひだしなどの和食を中心に作っています。家族の健康を考えると、なるべく脂分の少ないメニューを選んで作ります。	私（は）の熱中しているとは、料理です。	★スピーチ原稿

その後、「はじめ」「なか」「まとめ」「むすび」のポイントを示した学習シートを利用しながら、論理的で分かりやすいスピーチ原稿を作成させた。多くの生徒が構成や言い回しを参考にスピーチ原稿を書いており、意欲的に取り組む生徒が多く見られた。

また、1時間が終わったところで一度スピーチ原稿を回収し、朱書きをし、次回の授業に返却した。構成の型や論理性、言葉の選択等様々な観点から朱書きをし、より良いスピーチ原稿に近づけられるよう視点を示した。(資料4参照)

資料4【学習シート スピーチ原稿】

むすび	まごめ	なか3	なか2	なか1	はじめ	構成・内容
行動目標	自分の考え	理由や具体例(思い出しているエピソード)	紹介	説明	話題	書き方のポイント
★これかもしたいことを ★(思い)	★エピソード(出来事)を 述べて、考えたこと、学 んだこと(感想)をい ふ。	※「場面・状況・感情・ 時間」を、その 時の「様子」がどの よすくをいふ。	★一番伝えたいこと を、理由や具体例(エ ピソード)をいふ。	★出来の夢の紹介や説明 をいふ。 ※「いつ・どこ・だれか」 何ぞ、どうしたかを 詳しく書く。	★何について話すのかを いふ。 (例)私達の将来の夢は、 ○○です。	★スピーチ原稿

③発信・交流・評価・一般化学習【活用型学習2】(1時間)

『伝え合う』スピーチ会」と目標を掲げ、全体に向けて一人ずつスピーチを行った。事前に一方的な発信の言語活動にならないよう、論理的な「話す」「聞く」「伝え合う」の基礎・基本学習を振り返らせた。

また、一人ひとり互いに評価する時間を設定し、観点をもった聞き方も意識させた。非常に温かな『伝え合う』スピーチ会」を行うことができた。

(2) 授業実践 道徳

『あなたはどう生きますか。—5つの将来像から—』

初めに、将来進む生徒が多いであろう点とアンケート結果を踏まえ、5つの将来像を提示した。

項目は、①家庭、②仕事、③趣味、④公共心、⑤経済的な豊かさの5つである。

しかし、この5つの選択肢はあくまでもきつかけとしての例示であり、自分の幸福、目指す生き方、職業や価値観、願いや憧れ等と関連させて、自分の考えや意見をもたせ、交流させた。(資料5・6参照)

資料5【学習シート】

資料5【学習シート】

あなたは、どう生きますか。—5つの将来像から—

1 ①から⑤まで、1つを選び、その理由を書きましよう。

2 グレードで自分の希望の将来像をいふ。・意見を交換しよう。

3 他グループの良い点、悪い点を書こう。

5つの将来像	理由	意見
1 家族が天寿にまで長生きする	お金かえくんある	だらけてしまう
2 角れ合う時間多	お金かえくんある	自己中心的になってしまふ
3 少休にしている	お金かえくんある	かまがてまくなる
4 収入が少な	お金かえくんある	税が高い
5 収入が少な	お金かえくんある	

平日は、わり仕事をして、休日は、趣味のスポーツなどをして、たいから。

資料6【振り返りシート】

あなたは、どう生きますか。—5つの将来像から—

1 ①から⑤まで、1つを選び、その理由を書きましよう。

2 グレードで自分の希望の将来像をいふ。・意見を交換しよう。

3 他グループの良い点、悪い点を書こう。

4 ①から⑤まで、1つを選び、その理由を書きましよう。

5 ①から⑤まで、1つを選び、その理由を書きましよう。

6 ①から⑤まで、1つを選び、その理由を書きましよう。

7 ①から⑤まで、1つを選び、その理由を書きましよう。

8 ①から⑤まで、1つを選び、その理由を書きましよう。

9 ①から⑤まで、1つを選び、その理由を書きましよう。

10 ①から⑤まで、1つを選び、その理由を書きましよう。

4 学習目標と評価規準 (基準)

(1) 学習目標

- ①「論理的に」「豊かに」聞く必要性と観点が理解することができる。
- ②「論理的に」「豊かに」話す必要性と観点が理解することができる。
- ③論理的で分かりやすいスピーチを書くことができる。

(2) 評価規準 (基準) のポイント

以下に論理的な文章の書き方、発信の評価規準 (基準) を示す。

- ①論理的な文章の構成の型の理解
- ②話す・聞く (伝え合う) 基本の型の理解
- ③適切な情報の選択
- ④分かりやすい説明の仕方や表現技法の工夫の理解
- ⑤論理の一貫性
- ⑥自分の立場からの理解・選択・判断
- ⑦発信・交流 (互いに「伝え合う」を意識)
- ⑧自己評価・他者 (相互) 評価・一般化

(3) 「学び方・評価」のポイント

- ①導入・基礎・基本学習【話す」「聞く」の基本の理解】
  - ア 話す・聞く (伝え合う) 楽しさや必要性を理解することができたか。【楽しさや必要性の理解】
  - イ 話す・聞く (伝え合う) 基本の型を理解することができたか。【メモの技術・キーワードの選択】
  - ウ 学習の方法 (メモ・ノート等)、課題意識や見通しをもつことができたか。

【学習の方法の理解と課題意識】

- エ 情報を集め、必要な情報を選択することができたか。【資料の選択と構成】

②発展学習【論理的・個人的に書く基本の定着化】

- ア 論理的で分かりやすく書く必要性和方法に気付くことができたか。

【論理的な型の必要性和方法の理解】

- イ 自分の立場や関心・興味から論理的に分かりやす

く書くことができたか。

【自分の立場からの「習得」の再構成】

ウ 一貫した主張と構成の型を理解することができたか。

【一貫した主張と構成の型の理解】

エ 「はじめ」「なか」「まとめ」「むすび」の4段階の構成で発表原稿を書くことができたか。

【論理的な型の活用】

### ③発信・交流学习【論理的に聞く・話すことの確認】

ア 聞き手を意識した姿勢や視線、声の大きさや速さで話すことができたか。

【効果的に聞くための基本技術の活用】

イ 話し手の主張や具体例、体験談を正確に聞き取ることができたか。

【効果的に伝えるための基本技術の活用】

ウ 発表の内容に対して、個性やその子らしさを見つけながら聞くことができたか。

【豊かに聞く（仲間の良さの理解・要約・メモ・質問）】

### ④評価・一般化学習

【自己（相互）評価、他教科や生活経験に活かす学びの一般化】

ア 学習した内容（到達目標の観点）を意識し、自己評価できたか。【学習のメタ認知能力の育成】

イ 自己・他者を評価し、新たな課題発見や疑問が持てる。【自己学習計画能力の育成】

【「伝え合う」スピーチの会の様子】



## 5 実践の成果と今後の課題

### (1) 実践の成果

#### ①将来を切り拓く力を育てる

—多くの生き方に触れ、自らの生き方をみつめる—

道徳の実践において、授業の最後に「あなたはどう生きたいですか」という問い掛けをし、振り返りシートに記述させた。以下がその記述がである。（下線は平井による、以下同じ）

#### 資料7 【生徒による記述①】

- ・学校の先生になりたいと思うのは変わらないけど 今まで気づかなかった生き方があって、面白いと思った。
- ・今日の授業を受けて、やはり 自分のしたいことをして生きていきたいと思いました。
- ・仕事をえらぶなら やりがいを求めたいと思う。

自分の夢を再認識すると同時に、生き方の多様性に気付いたり、自分の将来の方向性をもったり、興味や関心を確認する様子が見られる。

ねらいの一つであった、「自分の興味のある生き方を自覚したり、自らの将来をみつめる気持ちを高めたりする」というきっかけになったのかもしれない。

しかし、遠い将来の話であると受け取り、自分自身の問題としてとらえる部分が弱かったように振り返る。今後は、中学校一年の自分に何が必要なのかという切実感をもった授業を心掛けたい。

また、将来を切り拓く視野を確立させていくためには、長期的な視野をもった取り組みが必要不可欠である。日頃から教師自身の経験や多くの生き方に触れさせながら、生徒の中で、将来を見通し切り拓く力へとつなげることができる指導や支援をしていきたい。

#### ②夢を語り合える教室

—夢を受け入れてくれる安心感—

本実践では、「将来の夢」を共通課題の一つとしたが、スピーチの発表会を行った後に、担当の先生から「夢を語れるっていいね」という言葉をいただいた。また、生徒の振り返りでは以下のような記述が見られた。

#### 資料8 【生徒による記述②】

- ・ みんなに自分の将来について語れて、とても嬉しかった。
- ・ みんな夢に対して様々な思いがあって、びっくりした。
- ・ みんな夢に向かって日々努力していることが分かった。

将来の夢に関するスピーチを行うと、研究の主題設定から選んだが、夢を受け入れてくれるという安心感や生徒相互の関係性ができていないと難しい実践であったことに気付いた。それができる仲間同士の温かな関係を見ることができ、夢を語り合える仲間、集団作りの重要性を学んだ。

### (2) 今後の課題

#### ① 心の本質を伝え合うスピーチ活動

—互いの価値に触れ、理解し合う—

実習Ⅰのテーマとの関連もあり、「将来の夢」と「熱中していること」をスピーチの共通課題に設定した。

4月に新しい仲間と出会い、関係性はできてきているものの、まだ互いの知らない部分も多かったようだ。スピーチ後の振り返りでは、以下のような記述が見られた。

### 資料9 【生徒による記述③】

- ・1年X組の仲間のことをまた新しく知れた。
- ・Uくんは小学校からイメージ通り機械のことを言って、やっぱりイメージ通りだった。
- ・Uくんはロボットの何から何まで知ってそう。いろいろ聞いてみたい。
- ・Iさんはおしとやかな性格なのに、ボカロが好きななんて衝撃的な事実！私も大好きなので嬉しかった。※（ボカロ…合成音声）
- ・みんなの個性を新発見！みんなの体験談が面白い。

仲間の知らなかった興味や性格に気付いたり、その子らしさを再確認したりしたことがうかがえる。そして、日常生活の中でスピーチの際に取り上げられた話題をしていこうという、スピーチを生かす思いが書かれている。スピーチを通して、相互理解や新たな一面の発見につながったようだ。

しかし、「聞く」学習の際に、「その人らしさを意識して聞く」ということは入念に指導を行ったものの、「その人らしさを聞く価値」という視点まで伝えることができず、「その人らしさを知って何になるのか」という部分が曖昧になっていた。その人らしさを知ることによって、その人の心とつながり、その人のあたたかさに触れることができる点も理解させ、スピーチのもつ価値を気付かせていく指導が必要であった。今後、そのような、心の奥底でつながるスピーチを意識し、心の本質や言葉にならない思いにも目を向けられるようなスピーチ活動を展開したい。

### ②「伝え合う」スピーチ活動を他教科・活動へ活かす

本実践は、「伝え合い」をキーワードとして、スピーチ活動を行った。

スピーチ活動は、生徒も小学校で何回か行ったことがあるようで、不安や抵抗感あったものの比較的慣れていた。そのため、基本的な「話す」「聞く」の姿勢は大変身についており、それに加えた、論理的に「話す」「聞く」観点に焦点をおいて指導を行った。本実践では、多くの生徒がその観点を踏まえ、スピーチを聞き、話すことができていた。

### 資料10 【生徒による記述④】

- ・ただ人の話を聞いているだけでなく、その人のいいところやしさを見つけながら聞くことの大切さを学びました。
- ・「伝え合う」スピーチって、こうやって相手に自分のことを知ってもらうものなのかなと感じた。
- ・今日はいつも以上に聞き手を意識しました。次やるとしたら絶対に4つの観点全てができるようにしたい。

しかし、全体として、「伝えたい」という思いを高める工夫が弱かったのではないかと振り返る。スピーチ活動を通して、自分はこのことを伝えたいという思

いを強くする手立てや支援が必要だった。思いを強くすることが、スピーチの声や抑揚、表情に表れてくるのではないかと考える。

また、本実践を、より良く相手に伝えるために必要な技術であるという切実感や必要性を感じさせることが必要であった。そうすることで、生徒がより正確に、そして豊かに「伝える」ための技術としてとらえることができ、国語科の授業内で終わらせることなく各教科等につなげられるのだと学んだ。

## VI 授業づくり実践 一教師力向上実習Ⅱ一

### 『豊かに読み、自己の生き方を見つめる小説教材の指導』

#### —「伝え合う」発信・交流の活動をまじえて—

### 1 テーマ設定とその背景

#### (1) 小説教材における「習得」と「活用」

小説教材における「習得」「活用」の指導は、まず「習得」の段階で、文学固有の構成や描写、批評等を読み取り、自分の考えをもたせる。そして、「活用」の段階で、「習得」した知識や技能を踏まえ、自分の立場や興味関心から論理的にまとめたり、発信したりしながら、生徒の読みを一般化していく必要があるとされている。

#### 2 実践指導計画 次頁に実践計画表を示す。

#### 3 実践の内容と実践のポイント

##### (1) 授業実践

##### 国語科『大人になれなかった弟たちに…』

#### ①導入・基礎学習【習得型学習1】(1時間)

本実践では、「大人になれなかった弟たちに…」を取り扱った。本教材は、近代小説のジャンルに属し、戦争を扱った戦争小説である。作者が自ら体験した太平洋戦争を基に語った作品で、太平洋戦争を背景としながら、弟のヒロユキが栄養失調で亡くなるまでの様子を描いている。まず、その戦争という背景をおさえるため、資料を活用しながら戦争の実態や当時の人々の生活について考えた。その後、文学的小説の読み方を、ポイントを絞って示し、小説を読む上で大切な観点を伝えた。

#### ②基本学習【習得型学習2】(3時間)

前時を踏まえ、文学固有の構成や描写を読み取るとともに、中心人物の心情の変化とその要因を互いに発信交流しながら深めていった。また、象徴的なイメージやキーワードに着目し、その言葉の効果や意味を考え、理解させていった。

また、各時間で互いに「伝え合う」活動を多く取り入れ、実践Ⅰで行った「話す」「聞く」の観点を振り返り、意識させながら進めた。仲間の意見から新たな考え方を見つめたり、自分の意見と照らし合わせたり、考えを再構成したりする姿が見られた。

資料11【実践計画表】

段階	主な学習内容	身に付けさせたい言語力	本単元における評価基準(到達目標)
習得1	<b>導入</b> ①学習に対する興味・関心を持つ。 <b>基礎</b> ②作品の状況設定(時代背景・登場人物)を理解する。 ②「読む」ための技術を理解する。 ③初発の感想を書く。	①正確な音読(内容理解の基礎) ②文学的文章の読み方(中心人物の変化と出来事・特有の表現) ③学習の「メタ認知能力」の育成 ④論理的な伝え合い。 →学習シート	①正確にあらすじを理解することができる。 ②文学的文章の読み方を理解することができる。
習得2	<b>基本学習</b> ①あらすじを掴む。 ②中心人物の心情や変化を捉える。 ③互いに伝え合う活動を行う。 ◎登場人物の「悲しみ」について考える。	①中心人物の変化・言動・出来事からの心情の読み取り ②学習の「メタ認知能力」の育成 ③論理的に伝え合う →学習シート	①中心人物の心情の変化を読み取ることができる。 ②論理的に相手に伝えることができる。
活用	<b>発信・交流</b> ①キーワードや象徴的なイメージを理解する。 ②互いに「伝え合う」活動を行う。 ◎「母」の心情を読み取る。	①キーワードのもつ象徴性の理解 ②適切な表現・語句の選択・活用 ③学習の「メタ認知能力」の育成 ④論理的に伝え合う力の育成 →学習シート	①キーワードのもつ象徴性を理解することができる。 ②適切な表現や語句の選択をすることができる。
	①中心人物「僕」の心情を読み取る。 ②優れた表現を理解する。 ③「僕」の現在・「僕」の生き方についての考えをまとめる。	①特有の表現の理解 ②自分の考えをもつ ③自分の生き方と登場人物の生き方との比較 ④学習の「メタ認知能力」の育成 ⑤論理的な伝え合い →学習シート	①特有の表現やその効果を理解することができる。 ②自分の考えをもつことができる。 ③自分の生き方を考え、登場人物の生き方と比較しながら読むことができる。
評価・一般化	①優れた表現を理解する。 ②作品の主題・メッセージ性を理解する。 ③学びの一般化を行う。	①他教科や生活において活かすことができるような「学びの一般化」 ②学習の「メタ認知能力」の育成(内容価値・方法・一般化への活用)	①生活や経験、読書力に活かそうとすることができる。 ②学習を振り返り、自己課題を見つけ、解決への見通しをもつことができる。

③発展学習【活用型学習1】(1、5時間)

中心人物(僕)の現在について、また中心人物や場面、表現を選んで文章で書く時間を設定した。その際、現代社会や時代の課題等と結び付けて自分の意見を書いたり、自分の生き方と比較し、自分の立場や状況を踏まえて書いたりする等の観点を与えながら指導を行った。

④評価・一般化学習【活用型学習2】(0.5時間)

作品の主題・メッセージ性について全体で交流し、筆者の願いを読み取らせた。また、本単元での自分の学習の成果を振り返らせるとともに、今後の自分の読書活動や各教科等を通して生活や人間関係に活かす視点を伝えた。

4 学習目標と評価規準(基準)

(1) 学習目標

- ①小説(近代小説)を読む楽しさに気付くことができる。
- ②小説(近代小説)を「正確に」「豊かに」理解することができる。
- ③中心人物と自己を対比しながら考えを書くことができる。

(2) 評価規準(基準)のポイント

以下に、文学的文章の読み方の評価規準(基準)を示す。

- ①正確な音読
- ②新出漢字の読み方・難語句の理解
- ③状況設定(人物・舞台・時代背景)の理解
- ④作品の構成・構造の理解(場面設定・結末・人物の変化)
- ⑤人物像の理解(中心人物の変化ときっかけ・中心人物と対比人物)
- ⑥個性的な表現技術の理解(心理・自然・行動描写、象徴的イメージ・キーワード)
- ⑦作者の意図・思考の型の理解
- ⑧自分の立場からの理解(自分の考えをもつ。)
- ⑨発信・交流(互いに「伝え合う」を意識)
- ⑩自己・他者(相互)評価・一般化

(3) 「学び方・評価」のポイント

①導入・基礎学習【文学的文章の読み方の理解】

ア 正確にあらすじを理解することができたか。

【おおまかな内容把握】

イ 文学的文章の読み方を理解することができたか。(人物の変化・描写・語り・時代背景等)

【読む技術の学習基盤の習得】

②基本学習【中心人物の心情・表現技術の理解】

ア 中心人物の心情の変化を読み取ることができたか。(はじめの設定と終わり・きっかけの事件やエピソード等)

【中心人物の変化とその要因の理解】

イ キーワードのもつ象徴性を理解することができたか。(色彩・もの・自然・食べ物等)

【優れた描写や象徴的イメージの理解】

ウ 論理的に相手に伝えることができたか。(交流)

【論理的に聞く・話すことの確認】

③発展学習【自分の立場からの論理的な判断・再構成】

ア 自分の考えをもつことができたか。

【自分の立場からの理解・批評、情報の再構成】

イ 自分の生き方を考え、登場人物の生き方と比較しながら読むことができたか。

【価値・生き方の再構築】

④評価・一般化学習(国語から他教科・読書力へ)

ア 生活や経験、読書力に活かそうとすることができたか。【実生活での学びの一般化】

イ 自分の考えや解釈を生き方や考え方に活かすことができたか。

【判断力・生き方への学びの一般化】

ウ 作品の主題、作者のメッセージを理解することができたか。【テーマ性・作者の主張の理解】

## 5 実践の成果と今後の課題

### (1) 実践の成果

#### ① 小説の「読み方」を教える必要性

小説は生徒にとって身近であり、読書活動においても多く触れる機会がある。国語科で小説を教える意義の一つは、状況設定やあらすじ、場面構成、表現技法等を押さえながら、小説を深く「読む」技術を教えることにあると考える。

そのため、ポイントとなる読み方を教師が押さえ、生徒に読ませることで、より焦点化した「豊かな」読みにつなげることができる。

#### 資料12 【生徒による記述⑤】

- ・小説を読むポイントがすごく参考になりました。
- ・この話がノンフィクションであることを知ってから読むのと、読んだ後に知るのとは、全く違う感じになるので、この話は奥が深いと思いながら読めた。
- ・一つの授業でこんなにたくさんの情報があって良かった。
- ・登場人物であまり登場しない父の思いについても考えたい。

今回の実践でも、①登場人物の役割・位置付け・心情の変化、②表現の特徴、③印象に残った場面等、主に三項目を設定し、小説の読むポイントを踏まえて読み進めるよう指導した。多くの生徒がポイントを押さえながら読んだり、様々な視点から感想をもったりすることができていた。

しかし、日常の「読む」活動につながるような指導

が不足していたように感じる。授業内で留まってしまい、他の活動へつなげる支援が弱かった。様々な小説の例を挙げ、読み方の例を提示し、日常生活の読書等に結び付けるような視点も押さえつつ、広がりやつながりをもつ指導を行っていきたい。

#### ② 時代背景・設定の意図や効果を読む

物語や民話と異なり、近代小説を読む際は、時代背景や設定を簡潔に押さえることが重要である。中心人物の変化やそれらを通じた作品のメッセージは時代背景と結び付けて描かれているからである。

今回の場合、戦争を体験したことのない生徒に対して、いかに状況を想起させ、時代背景とともに読み取らせるかを考えた。写真や資料だけでなく、当時中学生だった生徒の戦争体験を綴った文章を読ませたり、小学校の歴史の授業と絡めたりしながら、生徒が背景を理解することができるよう努めた。

#### 資料13 【生徒による記述⑥】

- ・広島や長崎のことがよく書かれていましたが、他のところでも同じような被害を受けて苦しんでいた裏があったことがよくわかりました。
- ・時代背景を掴んで話を聞いて、戦争は子どもも苦しめていたことがわかりました。

さらに、時代背景を踏まえた価値観や変化を感じさせながら、今の時代と照らし合わせ、現代との生き方や価値観とを比較させるような背景のつかませ方が今後必要な視点だと学んだ。

#### ③ 中心人物の設定とその役割・変化

「大人になれなかった弟たちに…」は、戦争の悲惨さとともに、戦争の非倫理性を強く訴えるメッセージ性が込められている。これはこの小説が、作者であり、小説の中の語り手であり、報告者であり、主人公でもある米倉齊加年氏によって描かれた世界であることによって、より一層メッセージ性が強まるとともに、リアリティが増した作品なのであろう。

今回の実践において、一番指導の中で弱かったと感じる視点は、中心人物の設定とその役割(効果)の読み取りである。主人公の「僕」の年齢設定が小学四年生であったことや、語り手の役割、登場人物の役割、設定の意図を指導し、教材の深さを伝えていく必要があった。そうすることで、さらに登場人物の心情にも迫ることができたと考える。

また、小説におけるメッセージ性を考えさせるのも重要な小説の指導の一つである。本教材は、大人の「僕」(中心人物・語り)が自らの戦争体験を見つめながら、現代を生きる私たちにメッセージを伝えようという思いに溢れる作品である。

戦争という厳しい時代を生き抜いた人々の生き方

に着目させながら、作者の思いを読み取らせ、作品の主題へ迫る指導の必要性を学んだ。

#### ④ 登場人物や言葉の象徴的イメージ

小説には、様々なキーワードやイメージが散りばめられている。その中の小説の象徴的なイメージを理解することで、作品のもつ優れた表現技術や言葉を分析的に解釈することにつなげることができる。

- ・母の一生懸命子どもを守り抜く姿は、本当に美しかったのだろなあと思った。
- ・親戚の家から帰る時の母の強い顔をたくましく思います。
- ・爆撃の恐怖の中これだけ一生懸命生きていく家族に感動した。
- ・ヒロユキが死んでしまった時、初めて泣いた母は、子どもに涙を見せないようにしていたのかなと母の強さを感じました。

今回の作品において、母の「涙」や「美しさ」が象徴的イメージの一つである。強くあり続けた母の「涙」や生きていることの「美しさ」について、生徒の実生活や体験に即しながら読み深めることが、作品の主題の解釈や批評する力に結び付いていくと学んだ。

#### (2) 今後の課題

##### ① 自分の立場から小説を批評・鑑賞する力の育成

小説を読み取らせた後に、「活用」の段階として自分の立場から小説を批評・鑑賞する活動を設定した。

- ・戦争の悲惨さと自分の命の大切さに気付かされました。
- ・このお話は、戦争にすべてを捧げているように僕は思います。
- ・私にも弟がいます。うるさく、ちびな弟です。毎日いるのが当たり前になっているからうるさいなあと思うけど、もしいなくなったら家は静かになっていると思います。今生きていることに感謝したいです。

自分の読んできた戦争小説と比較したり、自分自身の家族と物語を照らし合わせたり、自分自身の価値に改めて気付いたりしている生徒が多くいた。

しかし、授業時間数の中で、深めることは難しく、そこから「僕」の生き方について考えさせ、自らの生き方と結びつけながら意見をもたせる実践まで行うことができなかった。

今後は、「習得」した学びについて、自分の立場から考えを述べ、論理的な文章を書く力やそれを発信していくといった「活用」する力の育成へとつなげる国語の授業を今後取り入れていきたいと考える。

#### ② 小説教材と「伝え合う」力の育成

本実践において、「伝え合う」活動をテーマに設定していたため、ペア学習やグループ活動、そして学級全体で発信・交流の場を多く設けた。

しかし、その時間は、生徒同士の考えの確認や新しい考えの発見にはつながったものの、読みの「深まり」には結び付けることができなかった。また、教材としてあつかった小説には、考えさせたい表現や心情が数多くあり、交流や発信の時間に長い時間をかけてしまうと、生徒が考えた部分での読み取りが中心になってしまい、浅い読みのままになってしまった。小説教材において、交流発信の時間と教師主導で読ませる時間の兼ね合いの難しさや教師の「読み」を深めるポイントの知識、提示の仕方等に必要な力の重要性を感じた。

まず、いかに教師が小説を読む観点（①登場人物の設定・役割、②時代背景の理解、③象徴性等）を押さえながら進めることが、生徒の深い読みへとつながるのかを実感し、学んだ授業であった。

また、生徒の発言の生かし方も学んだ。一見教師が予想していなかった意見でも、マッピングのような形式で結び付けていくと、意図した方向性に進むことを学んだ。さらに、類似した意見でも多く出させ、言葉のキーワードをうまく活かし、まとめていく大切さを感じ、「伝え合う」学習活動を通して、生徒の意見を学びの核心につなげていく授業力の必要性を学んだ。

「伝え合う」活動に関して、実習Ⅰで学んだ、「互いに相手意識を高めながら話す力そして聞く力の育成」とともに、本実習で得た「学びの深まりにつながる伝え合う活動の実践」という視点を心に留めながら、今後「伝え合う」発信交流の活動を展開していきたい。

#### Ⅶ 教師力向上実習Ⅰ・Ⅱを通して

##### 1 自立・協働・創造につながる言語力

将来のことや夢を論理的に正しく伝え合うためには、それらを支える言語力が必要である。また、それだけでなく、言語はコミュニケーションの方法や認識・思考の形式でもある。人は言葉を通して人とつながり、言葉によって自覚し、物事の良さを実感する。言葉を分かりやすく表現し、物事を多様な観点から論理的に考察する力は、今後、自立し、協働しながら新たな価値を創造し生きていく上で求められる力であり、その言語力の育成を国語科の役割として担っていく必要がある。

##### 2 生き方やコミュニケーション力を育む、読む力

中学校1年生段階における小説教材の指導の観点として、描写や語りから人間像や背景を読む指導が重要である。言葉では表現できない描写や人物の背景を読み取るのは、他者と協働するためのコミュニケーション能力やより良い対人関係の構築につながり、社会

において生き抜くための基盤の力となる。

また、小説には何人もの中心人物が登場すると同時に、その人物の生き方や考え方が多様に描かれている。それらに触れることは、共感したり疑問を抱いたりしながら自分の考えを創造し、自らの課題を発見、解決することにつながるだけでなく、自己の生き方を形成することにもつなげられると考える。

## Ⅷ 今後の課題と展望

### (1) 将来を切り拓く力の育成と国語科

#### 一 国語科から各教科・課題解決能力学習・生きる力へ

生徒自らが将来像や生き方を考える未来への視点をもつことは重要である。しかし、意識をもつだけでなく、変化の多い現代の中で自ら主体的・能動的に切り拓いていく力が必要である。そのためには、生きる力の確実な育成が求められ、その育成のために国語科は大きな役割となる。

これらの背景を踏まえて実践を行ったが、各教科への広がり、生徒の生活に生きるという部分の指導が弱かった。読書力や生徒自身の課題解決能力の育成につながる活用力に重点をおいた指導を目指したい。

### (2) 互いに尊重し、論理的に「伝え合う」

#### 一 価値ある充実した交流・発信の活動へ

スピーチ活動や関わり合いなどの発信・交流活動を取り入れた実践を行ってきた。話す・聞くの姿勢や態度面の力の習得とともに、立場や状況や相手に合わせ自分の考えをもち、発信することや相手の主張やキーワードを的確に聞き取り、自分の意見と比較しながら聞くことは多くの生徒ができていた。しかし、伝え合うなかで相手の人間性や言葉の裏に込められた思いや背景を感じながら伝え合う段階に到達することができなかった。

同時に、教師と生徒、個々の人間関係、そして学級の温かな関係性も、豊かに「伝え合う」ために必要なことを学んだ。

今後は、学級や教師の人間関係や温かさも大切にしながら、生徒が心と心でつながり合うことができる「伝え合う」活動を目指してきたい。

## Ⅸ おわりに

「私も平井先生みたいにそばで聞いてくれて、安心できる先生になりたい。」ある生徒からの言葉だった。言葉が心に染み入るのを感じた。同時に私が中学生だった頃、生徒と同じことを恩師に思い抱いていたことを思い出した。

実践を通して私自身が生徒の将来の指針やきっかけを多く与えられる教師になりたいと強く感じている。

この2年間の学びと持ち続けている教職への想いを心に留めながら、春から始まる教師生活を送っていききたい。

## 【主な参考文献】(注記は除く)

### 1 文部科学省関係

『中学校学習指導要領解説総則編』(文部科学省 2008年9月、中央教育審議会答申『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について』(同2008年1月)、『第2期教育振興基本計画』(中央教育審議会答申2013年6月)、『児童生徒の学習評価の在り方について』(同2010年)、『評価規準作成のための参考資料(中学校)』(国立教育政策研究所2010年)等。

### 2 実習校関係

『平成25年度 学校経営案』(一宮市立A中学校 2013年)

### 3 実践関係

佐藤洋一・岡田智「小説教材における『習得・活用』の授業・評価開発」(『愛知教育大学教育実践総合センター紀要 第13号』2010年)、佐藤洋一・松木尚美「ファンタジー(物語)の『読み方』の基礎・基本から発信へー到達目標(評価基準)を明確にした授業・評価開発(小学校4年生)」(『愛知教育大学教育実践総合センター紀要 第9号』2006年)、佐藤洋一・野々山由佳「論理的で豊かな『聞く力』『話す力』を育てる国語科授業・評価の開発ー『水の東西』(山崎正和)を中心にー」(『愛知教育大学研究報告 56(教育科学編)』2007年)、佐藤洋一「国語科『習得・活用型学力』の開発と授業モデル4 伝記・ノンフィクション編」(明治図書2011年)、大熊徹「中学校国語科『活用型』学習の授業モデル」(明治図書2009年)、高木展郎・三浦修一『中学校新教育課程 国語科の指導計画作成と授業づくり』(明治図書2009年)、有田弘樹「作品の『テキスト形式』解明による国語科授業開発ー『批評的・創造的な言語力』を育てる授業モデル提案ー」(『国文学言語と文芸の会』2013年度大会・研究発表2013年12月)、日本言語技術教育学会編『言語技術教育 第4号 この文学教材でこの言語技術を教える』(明治図書1995年)、日本言語技術教育学会編『言語技術教育 第13号 二十一世紀に求められる言語技術とは何か』(明治図書2004年)等。

### 【付記】

教職大学院での2年間の主な実習は、以下の学校で行わせていただきました。「学校サポーター活動」「教師力向上実習Ⅰ・Ⅱ」(一宮市立A中学校)、教師力向上実習Ⅲ(一宮市立B小学校)、特別課題実習(豊田市立C小学校)、多様なフィールド実習(名古屋市内公共施設)

実習中におきましては、本当に多くの先生方からご指導・ご助言そして温かいお言葉をいただきました。今回この場でお名前を挙げることはできませんが、お世話になったすべての先生方に心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、学校サポーター活動や教師力向上実習Ⅰ・Ⅱ、修了報告書等で大変親身になってご指導くださった佐藤洋一先生、教師力向上実習Ⅲで熱心にご指導くださった鈴木健二先生、温かくご指導・ご助言して下さった教職大学院のすべての先生に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。